

第1回(仮称) 学習文化交流施設基本計画検討委員会会議録(概要)

【日時】平成21年10月9日(金) 14時00分～15時25分

【出席者】委員：7名(欠席者：6名)

事務局：総務部長、まちづくり推進室3名、生涯学習課1名

コソカウト：3名

【会議概要】

1. 開会

2. 委嘱状交付

市長より各委員に委嘱状を交付

3. 市長挨拶

ご多忙にもかかわらず、委員就任をご快諾いただきまして、誠にありがとうございます。本市では、地域の中核病院である鹿角組合総合病院の建設工事が順調に進んでおり、来年の5月には新病院がオープンする予定にあります。待望の新病院がオープンする一方で、組合病院の移転によって、現在の病院の場所が大規模な空地となり、中心市街地に空洞化を生じさせることが懸念される状況にあります。

移転後の跡地利用については、まちづくりの重要課題と位置づけ、昨年度、中心市街地の将来像と基本的方向性を定める「まちづくりビジョン」の検討の中で、検討を重ねた結果、市民需要や行政需要にかなうことを大前提に、多くの人たちが集うことによって、中心市街地並びに市全体の活性化への波及効果を生み、地域活性化の原動力となる市民の一体感を生むシンボリックな施設とするために(仮称)学習文化交流施設を基本方針として定めたものであります。

今後、市民の皆さんや関係団体の方々、さらには施設整備などに精通した有識者の方々からも意見をうかがいながら、施設の具体化を進めてまいります。私は、この複合施設の整備に、次の時代の鹿角のため、そしてそれを担う若者や子ども達のため、という想いを強く抱いております。

施設が将来にわたって多くの人々に愛され、利用されるために、皆様から専門的かつ総合的な視点から、幅広く検討いただくことによって、施設の具現化に向けてまいりたいと存じますので、特段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

4. 委員長選任

委員の互選により、谷津委員(東北工業大学教授)を選任

委員長：私は東北工業大学で建築を専門にやっていますが、どちらかというと過疎のまちのまちづくりのお手伝いということでこれまで交流施設であるとか、宿泊施設や温泉施設などを造るお手伝いをさせていただいています。特に市民の皆さんと一緒にやっていくワークショップのスタイルでこれまでいろんな計画を作ってきておりましたので、今回こういうお手伝いをさせて頂けるということで大変喜んで、楽しみにしております。

実は今日、私、1時間半ほど早くこのまちに着きまして、一通り商店街、一番賑やかな商店街あたりからずっと見て廻りましたが、ちょうど一番高い所から駅の方に向かってくる中間ぐらいに小川があって、まちの構造的に非常におもしろいなという感じを受けました。そういうまちの特性もうまく盛り込めるような、計画となることを期待していますのでよろしくご議論をお願いしたいと思います。

5. 案件

(1)(仮称)学習文化交流施設基本計画の策定について

資料1～資料4について、事務局説明

- ・昨年度策定した「まちづくりビジョン」の中で、鹿角組合総合病院跡地利活用方針を「図書館機能」「文化創造機能」「活動支援機能」「交流創出機能」からなる複合施設・(仮称)学習文化交流施設と定めたことから、施設の機能の内容を定めるために基本計画を策定する。基本計画は、次年度以降の基本設計、実施設計、建設工事の基本になる。
- ・今年度に入り、方針に基づいて庁内で検討を行い、「図書館」「文化ホール」「市民センター」「子育て支援施設」「交流広場」を構成施設とする案としている。
- ・庁内検討のほか、検討委員会で検討いただくとともに、パブリックコメントでも意見を伺いながら策定する。検討委員会では、複合施設の整備方針や具体的な機能内容について検討いただき、基本計画に反映させる。
- ・検討委員会は、今日の1回目の後、11月4日に2回目を開催し、年度内に5回程度開催する。

質疑・意見交換

委員：活動支援機能の中にビジネス支援等スペースとかビジネス支援とあるが、これは今ある施設ではどなたところのどんな内容のものか？

→事務局：ある施設の移転ではなく、いろいろな機能や情報を活用しながらそういった機能を持たせたいという想定で、具体的なところまで検討出来ている状況にはない。

委員：市民の感覚としては図書館が老朽化したので図書館を造る話があって、それが段々膨らんで、文化ホールは一時具体化したものが潰れたがなんとか入ってきて良かったと思っていた。その他にいろんな市民の交流とか、ビジネスとかが入ってくればバラバラなものが寄せ集めになっているイメージ。4つの機能で1番中核になるものは？

事務局：特にこれをメインという考えではなくて、4つの機能が全部入る施設整備と考えている。

委員：市民センターを一緒にするという考えはないか？

事務局：機能の中に活動支援機能があり、花輪市民センターを複合施設の中に設置したい。

委員：その場合の運営は市の方でやるのか？

事務局：基本計画の策定と並行して運営も方針を出していきたい。

委員長：いまある市民センターはどうなるのか？

事務局：まだ検討していない。

委員：前の公民館の時には鹿角市の中央公民館があった。それを廃止し市民センターが4つに分割され、鹿角市の文化行政がバラされた印象。新しく出来ると、他との連携、教育委員会などのお話とかも一緒にしていただく機会とか、そういう構想はあるか。

事務局：この場ではそういった議論までは踏み込めないが、市としてはそういった文化行政、どういった体制が望ましいのか、というような検討は当然していかなければならないと考えている。

委員：ホールはバドミントンなどに解放して頂けるようなホールになるのか？

事務局：会議の中で詳細については意見を頂きながら決めていきたい。ただ、なるべく多くの利用に使えるホールという案はあるが、文化交流施設ということで、バドミントンなどの体育的、スポーツ的な利用はいまのところ想定はしていない。

委員：市民センターの機能とあったが、市民センターは若干そういう体を動かしたりするのに使えるようなホールかと思うが。

委員：いまの市民センターでホールを使用される方の半分近くはそういう目的で使われている。踊りに結構使われていて、あとは居合いとかバトンにも使われている。

事務局：ダンスなどであれば学習文化交流の中の活動の一つと捉えている。具体的な内容についてはこの会議を進めながら検討する。

(2) 計画の理念及び複合施設の基本的な考え方について

資料5、資料A1,2、資料B1~B3について、コンサルタント説明

質疑・意見交換

委員：凄く壮大なスケールでちょっとイメージが湧かないが、他の市町村の複合施設で目指しているものがあるか。例えば秋田市のアルヴェは、未来センターとか子供支援の施設が入り、下の方は椅子とテーブルがありサロンのようになって、ビジネス支援の情報とか観光の情報があるが、ああいう感じを目指しているのか、どういうものを考えているのかがちょっと見えて来ない。

→委員長：今回、複合施設ということで皆さんそれぞれの立場で参加されているかと思うが、これまでのいろいろなところで行われている複合施設の事例もそうだが、要するになかなか共有できるものがないということだと思う。何かそういう事例的なものがあればある程度いろんな情報を共有できて同じスタートラインに立って議論できると思うが。先進的な事例も含めて、何かそういう資料は出せるか？

コンサル：類似というかたちの中でいくつか比較してお出ししたい。

事務局：今日は大きな目的としては、検討のスケジュールや体制を皆さんにご理解いただいて、次回以降具体的な内容に入るということで、抽象的ではありますが、理念なり基本的な考え方ということで説明させて頂いた。資料が少し足りないことについては、次回には改善していきたい。

委員長：書いてある内容については、それぞれ地域の課題を捉えているので、あまり異論はないと思う。基本理念についても、多世代住民の交流であるとか、あるいはもう少し書いているが、全くこの通りだと思う。何か特に鹿角特有のものとして抜けているのではないか、これは是非入れるべきではないかということで、お気付きのところがあれば。

委員：鹿角で不足しているのは、美術館的なもの。鹿角はすごい宝を持っているまちだと思うが、展示する場所は無い、他所から来たお客さんを案内する場所が無い。予算が無いのは分かるがその辺がこの中に欠けている。美術館的な機能を入れるのであればすっかり変えなければならないと思うが。一番困っているのは、鹿角市で持っている美術品などの収納場所がない。例えばセンターの中の宿直室にももの凄い宝物があったり、他のまちの学芸員とか何もびっくりされるぐらいのものがある。そういうことに対する目配りがあまりなかったが、その辺まで含めてこのまちの文化をどうしようかとかいう検討もしていかなければならないという気がする。

委員長：大事な指摘だと思う。最近の例では十和田市が現代美術館で相当の人を集めていることもあるので、何かこのまちが持っている芸術性というか、あるいは資産といいますか、芸術的な資産も含めて展示するような場所、資料というものは、この大きな区分けの中でいくと、文化創造機能というところに入るのではないかと思うが、その辺はいかがか。

事務局：機能としては文化創造機能の範疇。そういった美術品などを展示するスペースが無い、收藏するスペースが無いという意見は出されているので、それらを踏まえながら、こういった所に設ければ良いのかということも含め、この複合施設にどれくらい含めるのか、総合的に考えていかなければならない一つの検討課題であると認識している。

委員：A2の計画理念で点線の丸が4つあるが、定住人口・交流人口の確保はこの複合施設で叶うのか？と思う。子育て支援はある意味簡単に出来そうで、これがうまく機能すれば文化の創造も出来るかもしれないと思う。多世代の交流はとても大事な事だと思う。鹿角市民は文化会館を切望してもう何十年もなると言っても良いと思うが、この複合施設が出来た時に夢を与えるようなものとして、この多世代交流は、やり方によっては面白いことが出来るかもしれない予感がする。多世代交流がある意味メインになって進んでいけば夢を持たせることが出来るのかと。

委員長：子供にとっても老人にとっても、特に老人はやはり自己の存在の主張というのを認めてもらうことだと思う。それをどうやって施設に反映させることが出来るかどうかというお話かと。

事務局：多世代交流はひとつのこの地域の特徴と認識している。年配の方々、中間の世代、そして若い世代で、地域が成り立っていると思う。いま言われたことは非常に重要な部分で、施設を特徴付ける上で重要になってくる。幅広い世代の方に利用されるような施設、そういった中で交流が生まれるような施設ということ意識していければ良いのではないかと考えている。最初の定住人口・交流人口に関しては、究極の目標と言いますか、なかなか難しい部分だと思うが、子育ての支援などをしながら目標に向かって行ければ良いというような考えを持っている。

委員：子供の母親としての目線だが、この建物が文化交流施設で子供のためだけのものではないとは思いますが、例えばいまの交流人口のことについて、子供がいるとそういう遊ばせる施設に連れて行きたいということで、鹿角の方たちは例えばいろんな科学館とか、「岩手こどもの森」とかにわざわざでも行く。そういうわざわざでも行けるような要素が何かこれにあると良い。シルバーエリアが十二所にあるが、そこは体育館に常時バドミントンのネットが張られ、バスケットゴールがあり、卓球台があって来館して自由にラケットを借りて遊ぶことが出来る。鹿角には体育館が何箇所もあるが、予約をしてバスケットやバレーボールの練習をするというように、ちゃんとスポーツをする体育館ばかりで、子供がふらっと行って使える所がないように思う。この施設は文化施設なので無理なのかもしれないが、運動施設以外でも例えば子供たちが放課後時間の空いた時にふらっと行って遊べるような施設があればいいと思う。今の花輪図書館はすごく静かにしなければいけない雰囲気、子供向けじゃない図書館だと思うので、別室に行っておしゃべりしながら勉強ができたれば良いと思う。あと、児童センターがさくら保育園にあるが、児童クラブと一緒に使うようになっているので、児童クラブに入っていない子供の自由来館があまりしやすくない雰囲気。夏などに児童クラブの子たちでいっぱいになると子育てサークルとか、小さい子供がいる親子連れは使いづらかったりする。せまいうえにごちゃごちゃなので、自由に子供たちが行って楽しめるような場所が必要。特に鹿角では、夏は子供たちはプールにどんどん行くが、冬休みなどは遊びに行く場所がない。スキーは親がわざわざ連れて行かなければならないことが多く、自由に子供たちが集まれるような施設が欲しい。この交流人口から言えば、外から来ても魅力あるような、何か子供のための文化施設になると良いと思う。

委員長：子供の居場所ですよね、要するに。最近キッズニアという面白い施設が出来て子供も大人も集まって非常に賑わっているということが報道でもありました。子供の居場所をどのように作っていくかという視点がとても大事なような気がします。具体的に形として施設だけではなく居場所を作ることはちゃんとそれを見てあげる大人が居ないと駄目な訳ですから、その辺の仕組みも含めて考えていかなければならないという気がします。

委員：観光客という話がありましたが、それに文化的に、例えば鹿角市が標榜しているカルタ。この全国大会開くような規模。スポーツセンターでもいいと思いますが、イ草を張っている畳を用意して300畳以上。その為のカルタの練習をする場所、これには畳の部屋というのが当然出てくるかと思いますが、一応全国大会をやれるようなことも合わせてほしい。

委員：文化会館が欲しいとずっと念願してきたが、その場合の市民の声が2通りある。自分たちの活動の発表の場として、公民館のホールでも自分たちで椅子を全部並べ、終わってから更に疲れているのに椅子を動かしたりしている。昼は明かりが使えないとか無いとかで、自分たちでやるには照明とか全部仕込まなければならず、苦労してやっているのもう少し楽をして自分たちの発表の場が欲しいというのが1つ。それともう1つは良い芸術に来て欲しくても、ホールが無いから鹿角ではなかなか来てもらえないというもの。この2つが矛盾しているというか、良いものにはもの凄く大きなホールが必要で、どちらかにウエイトを置かなければならないと思う。例えばいま言われたようにカルタのまちということを標榜しているので、そこに力を入れていくという文化行政と結びついたらかたちでないと。例えば二戸市は劇団四季を毎年連れて来られるまちだと威張っているが、それはそっちに任せておいて、ここでは市民の文化の創造みたいなものに力を入れる、というようにどちらかウエイトを置かないと中途半端になる。そういう点ではもう少しこの機能について、市民がどういうものを望んでいるかということの議論が必要ではないかと思う。

委員長：音楽ホールは音響などが要求される。ただそれが年に数回やるためだけに必要か、というご指摘だと思う。どこに焦点を合わせたホールを作っていくのかというとても大事なこと。それはご提案いただいて議論しながら、最終的には提案していくのかたちなるかと思う。

事務局：いま大変貴重な意見が出されたので、それをこれからの策定に反映させるようなかたちで、課題もあるので、そういったのも詰めながら進めて行きたい。資料に関してもいろいろ指摘がありましたので、いまのこのような資料ですとイメージもしづらいかと思しますので、具体的に共通認識の中でイメージできるように、体的な検討に入っていく中でそのように進めていきたい。

委員長：それでは一通り今日の予定の案件については以上となります。以上をもちまして第1回の検討委員会を終了します。皆さん今日はありがとうございました。

15時25分閉会